

2021 桑島ゼミの取り組み

少子高齢化などによりさまざまな地域で活力が失われつつあります。地域はこの問題に対し、アートの力を借りて活性化活動を行なっています。桑島ゼミナールでは、地域の活動に参画することで、アートの地域活性化能力を調査しています。

西宮市ってどんなところ？

西宮と言えば、タイガースだけじゃない



左上：市内には5つの大学が！（関西学院）
 右上：モダン建築もあちこちに
 左下：「瀧の生一本」の産地として有名
 右下：専属オーケストラもある県立芸術センター

別荘地として開発された郊外都市

明治以降、農・漁村だったこの地に大阪の船場商人や企業経営者が別荘を建てだし、阪神電鉄は「市外住居のすすめ」を刊行し健康保養地として売り出すようになりました。他の電鉄は食料品、化学、鉄鋼などの工場を進出させました。そして、住宅地化も進み、大阪、神戸の住宅・工業衛星都市となりました。

豊かな生活文化が花開く

大阪の経済と伝統文化と、神戸の異国文化の間で伝統とハイカラが共存する「阪神間モダニズム」と呼ばれる芸術文化や建築、生活様式が生まれました。昭和35年には、石油コンビナート誘致問題での工場誘致派と環境保護派の論争を経て「文教住宅都市」を宣言しました。その姿勢は市民にも高く評価され、不動産情報サイト SUMO による「住みたい自治体ランキング関西版」では常にトップを占めるなど、人気の住宅地となっています。

西宮出身の有名人は、
 そこはかたなく文化の香りただよ？



市内のあちこちでライブやってるけど...

西宮のライブスポットは演じてナンボ!



伝説のジャズ喫茶「コーナー・ポケット」。

1975年、西宮北口にできたジャズ喫茶コーナー・ポケットなくして、西宮のライブスポットシーンを語ることはできません。もともとジャズを聴く喫茶店だったのですが、オーナーの鈴木喜一さんが常連客であったジャズを演奏する大学生たちに声を掛けてジャムセッションを始めました。やがてこのセッションはプロアマ問わずたくさんのミュージシャンが集まって音楽の真剣勝負の場となりました。しかし、音楽ファンに惜しまれながら2012年に閉店しました。

ほぼすべてが近郊都市型ライブスポット

西宮市には、公共施設を除いて26か所のライブスポットがあります。そのうち24か所は近郊都市型のライブスポットとして地域住民（プロアマ問わず）の演奏の場として機能しています。

ライブスポットを訪れる客は自らも演奏できるミュージシャンが多く、飛び入り参加が当たり前に行われています。また、セッションデーやオープンマイクが設定されている店も多く、ある時はライブの鑑賞者、そしてある時は演奏者となってステージはいつもたくさんのミュージシャンで賑わいます。



近郊都市型ライブスポットとは

大都市のライブスポットは、プロの演奏を客に聞かせる興行で収益を得るお店が中心です（大都市型ライブスポット）。これに対して、近郊都市では、興行だけでなく客に演奏の場を提供することで収益を得るお店が中心です（近郊都市型ライブスポット）。

とりあえずライブスポットを4つのタイプに分けてみた

13カ所のライブスポットのオーナーに話を聞いた。

往年ポップス系ライブハウス



カントリーなど少数派ポップスのライブ演奏が常時行われています。経営者・運営者は演奏者でもあります。客が演奏者である比率は高く、演奏に参加することを目的に訪れる客も少なくありません。利用者は中高年が中心です。

【調査したライブハウス】 イエローリボン、フォートワース

ジャズ系ライブハウス



ジャズ系のライブ演奏が常時行われています。経営者・運営者は演奏者でもあります。客が演奏者である比率は高く、演奏に参加することを目的に訪れる客も少なくありません。利用者は中高年が中心です。

【調査したライブハウス】 キャラバン、スリーコース、ピアノクラブ

リハスタジオ系ライブスポット



リハーサル・レコーディングスタジオがライブ会場となり、不定期でライブ演奏が行われています。防音がしっかりしているので、爆音系音楽のライブができます。出演者は日頃リハスタジオを利用している若者層が中心です。

【調査したライブスポット】 バードランド、モンジャクシン、ヌーヴェ

パブ・カフェ系ライブスポット



通常は飲食店として営業されており不定期でライブ演奏が行われています。ライブ演奏の際はミュージシャンのファンやカフェの常連客など幅広い年齢層が鑑賞に訪れます。

【調査したライブスポット】 オコナ、カフ、ジャッツアカデミー、ウェクス

ウラへ

「社会関係資本」の視点で4つのタイプを分析することにした

で、社会関係資本(ソーシャル・キャピタル)ってナンすか？

近隣住民同士の関わりを深めて、地域のネットワークを密にすれば、治安もよくなって犯罪も減り、統治の効率もよくなるとパットナムは考えました。善意や共感に基づく個人間の信頼関係は、自分にとってだけでなく、社会全体にとっての資本(財産)になるとパットナムは言いました。

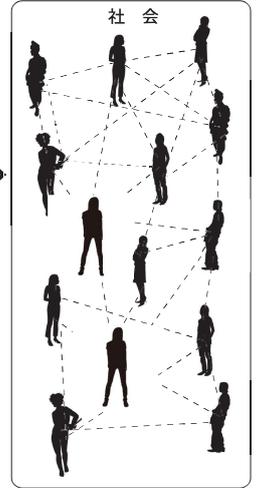
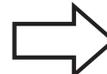
社会関係資本は、人間関係の間に宿る。つまり人間関係を増やし、一般的な信頼や互酬性が社会に広がっていけば、社会全体がよくなる。

社会関係=人間関係

互いに違った背景を背負った人々が二次的結社*で出会い、共通の目的のために協力しあう。



その過程で、自分とは違った**他者**への**信頼(一般的信頼)**や**互酬性**を学習。



二次的結社: 明確な目標をもち、成員の間接的な交流によって合理的に運営される集団。パットナム: アメリカの政治学者 (Robert Putnam)。

いわゆる「信頼」と「一般的信頼」の違い

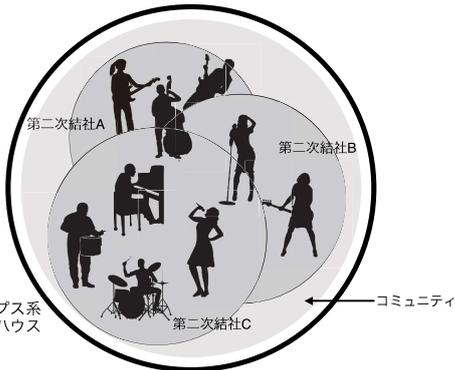
信頼: 家族や通常の友人など生活上の背景を共有し、互いについて多くのことをわかりあった上での信頼。

一般的信頼: 自分とはずいぶん違った、あるいはひょっとするとあまり好きになれない相手であってさえ成り立つような信頼。

社会関係資本として拡張性が高いのはパブ・カフェ系ライブスポットだった



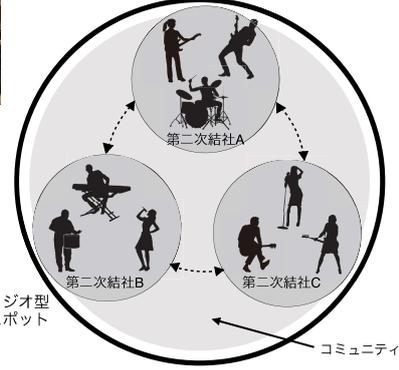
往年ポップス系ライブハウスと社会関係資本



カントリーやブルースなど音楽人口の少ないジャンルがメインの演目となっている往年ポップス系ライブハウスでは、ライブに出演するバンドやソロミュージシャン(及びファン)は固定化される傾向にあり、鑑賞者も馴染み客が多く**特定のライブスポット内に集う演奏家やファンによる内部結社型社会関係資本が形成されていく。**



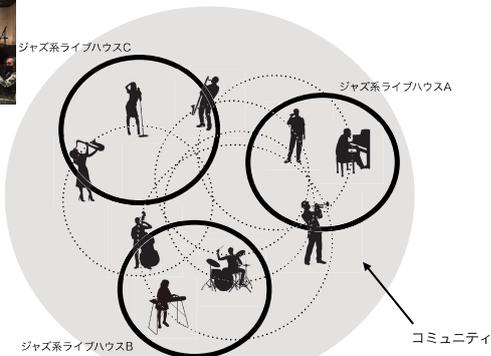
リハスタジオ系ライブスポットと社会関係資本



リハースタジオで行われるスタジオ主催のライブは、ここを利用する複数のバンドが日頃の練習の成果を披露する場として機能している。鑑賞者は同じライブに出演する他のバンドメンバーやファンである。このイベントを通じて特定のライブスポット内にそこを利用する複数のバンドのメンバー(及びファン)がつながり、**リハースタジオの枠内で限定的な機連し型社会関係資本が形成されていく。**



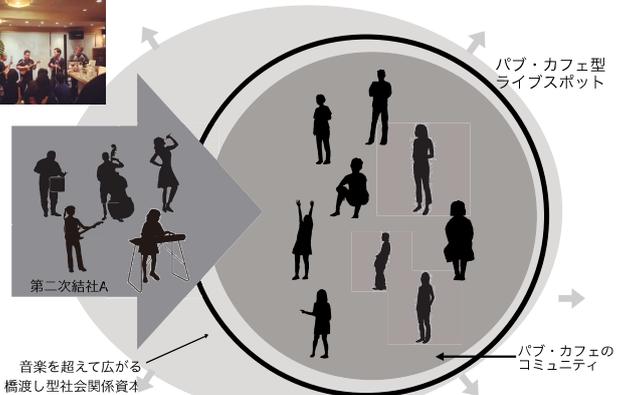
ジャズ系ライブハウスと社会関係資本



予定調和を避け即興性を重視するのがジャズである。ジャズ演奏者たちは複数のジャズ系ライブスポットを一匹狼的に渡り歩き、各所で出会った演奏者とライブ演奏を楽しむ。ジャズ演奏者たちによって複数のライブハウスがつながり**複数のジャズ系ライブハウスに跨った機連し型社会関係資本が形成されていく。**



パブ・カフェ系ライブスポットと社会関係資本



馴染み客で構成されているパブ・カフェコミュニティにライブ演奏(第二次結社A)という異質なものが侵入し、共同主体としてライブを成立させることで、**音楽コミュニティという枠組みを超えた機連し型社会関係資本が形成されていく。**



ライブスポット紹介動画も見てください!!
にしのみやライブミュージックスポットたずね歩き

